

日程 2012 年 6 月 15 日(金) 13:00 ~ 17:30

場所 目黒区 田道住区センター三田分室

(1) 「現代死生観」のレビューと討論

説明者 伊藤泰男

前回第 31 回研究会において「現代死生観について」(伊藤講演)では“死生観の歴史” “自我の問題” “釈迦の死生観” “日本人の死生観” “現代の死生観” と非常に幅広い内容の講演があったが、時間の関係で残念ながら十分な議論が成されなかった。そこで今回は同じ演目で約一時間の講演と、次の演目「欲望論」を割愛して約一時間強の活発な議論が行われた。講演は「現代死生観について」の前回資料に 2・4 章 “意識と自我と魂” が書き加えられ、この章の重点的な説明があった。内容は死生観の問題は人に特有のものであり、人の意識は外部からの侵害を察知し応答する侵害受容の芽生えの進化したものと考えられる。自我はこの意識が自分という原点に結晶化したものであろう。所詮我々は意識から自我への自作自演の劇場であるとするならば、これぞまさに“空”であり、私たちの魂とはこの劇場で演じられる幻想である。“空”は(見方にもよるが)現代物理学的からも理解可能な概念である。以上の講演の後以下のような活発な議論が成された。・今日のように長生きに成って人は生に執着する様に成ったのでは、昔は死は身近かに有って病や事故、戦い等で人は簡単に死んで行った。・神或いは自分の外に超巨大なものがあると考える人と無いと考える人との間には大きな隔たりがある。・atheist(無神論者)とは。・納得して死にたい - 諦めるか - 受け入れるか。・自らが死を選び取る。

(2) 日本の武器禁輸出政策の崩壊——国家・経済・技術

説明者 菅沼純一

菅沼氏により配布資料に沿って武器輸出三原則に関する歴史と最近の動きなどについて次のような説明があった。自民党政権下で輸出先と輸出物に関する規制が行われてきたが、中曽根内閣のときに米国を例外とするよう緩和され、その後、迎撃ミサイルの共同開発も進められるようになった。更に、昨年末、民主党政権は米国以外との武器共同開発まで可能とした。産業界の要請とのことだが、この流れは疑問である。また、現在、国連で武器貿易条約が検討されているが、見通しははっきりしない。

菅沼氏の説明に対して議論が行われた。国会やメディア等でこの問題があまり議論されていないことへの危惧や歴史的な広い視野で考えるべきという意見が述べられた。また、現実として武器が必要な状況があることや莫大な開発費用の問題に関する指摘もあった。

(3) 欲望論 ---ブータン考---

説明者 伊藤泰男

消費社会の強力な牽引力の外に留まろうとしているかに見えるブータンの試みについては、今回の「欲望論」の中では議論されず、次回以降に持ち越された。

以上